

< 白金標準先物、景気後退懸念と利上げ再熱で調整の週・・・ >



(出所：オアシス)

先週に発表された求人情数が 2020 年 5 月以来の 1000 万件を下回るなど、発表された ISM 製造業景況指数、ADP 民間部門雇用者数、ISM 非製造業景況指数が尽く事前予想を下回るなど、景気後退を示唆する内容となっている。そのため一時白金標準先物は、金融市場の信用リスクが後退を見せ 4270 円まで反発した価格は、景気後退懸念の高まりから再度 4200 円を下回っている。特に週末のグッドフライデーの休場中に発表された雇用統計では、非農業部門雇用者数が事前予想を下回る 23.6 万人増、失業率は 3.5%に低下するなど、雇用情勢は依然と堅調な数字を示した事から、5 月開催の FOMC で 0.25%の利上げを実施する可能性が高まりを見せている。

特に景気後退を織り込みながら白金標準先物は、4100 円台を固める値動きを見せており、供給不足や大手投資銀行の強気の予想もあり、また相場には「需給に勝るものなし」の格言も存在する様に、外的な要因に隠れて需給要因が表面化すると巻き戻しの値動きが強まると思える。また今月是新刊発表の月でもあり、発表以降の値上がりが続いている事も考慮すると今週に下値を模索する値動きを示す場面では新規買いの対応が妥当と思われる。

< テクニカル >

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** の上昇が陰り、**シグナル** は上昇しており、RCI でも**短期**は切り上げだしているが**長期**は上昇を維持するなど、依然と強気を示唆している。ただ日足と移動平均線の乖離が拡大した状況であり、目先の調整安には注意した方が良いと思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,670,000 円(2023 年 4 月 10 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 39,160 円(2023 年 4 月 10 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>